

大正区民まつり2024展示

大正区の発展 紡績・木材・工業

2026年8月17日

大正区歴史を語る会

§ はじめに

大正区歴史を語る会では、毎年「大正区民まつり」に、ものづくり事業に協力していただきブース出展をさせていただき歴史に関する展示を行っています。

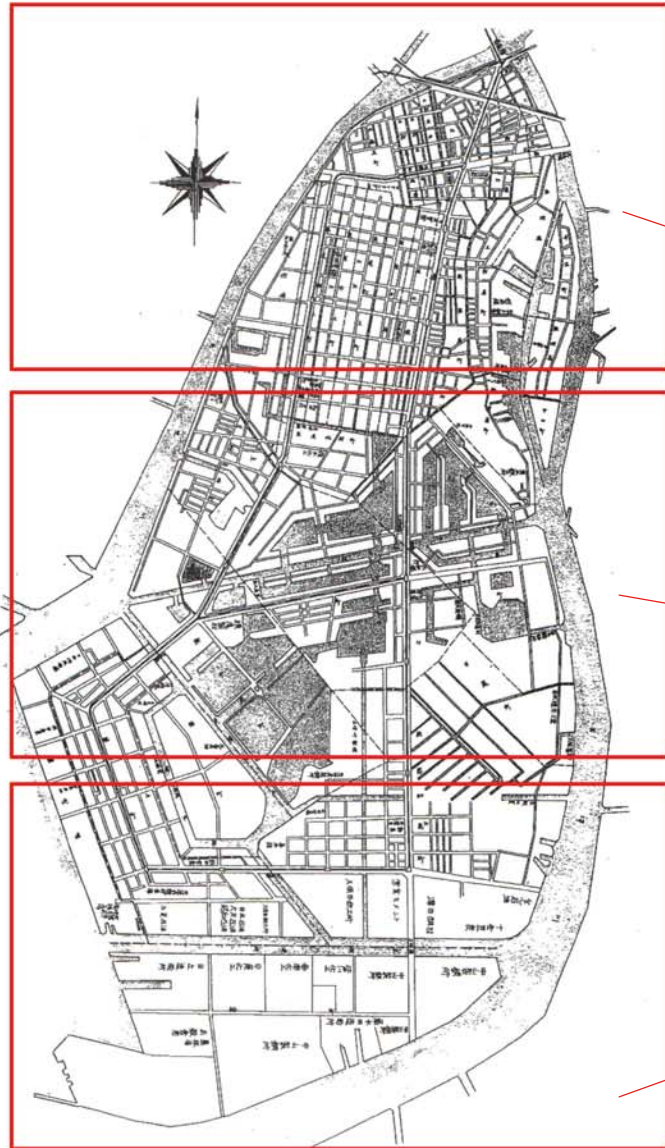
2024年10月20日（日）に開催された「大正区民まつり2024」では”大正区の発展 紡績・木材・工業”というテーマで展示を行いました。
本資料は、今回の展示内容をまとめたものです。

大正区歴史を語る会
会長 御手洗賢秀

§ 展示資料について

展示物は紡績・木材・工業の概要とそれぞれの「紡績」「木材」「工業」に関する資料を展示。次ページ以降に掲載しておきます。

『大阪市大正区全図』
昭和 28 年 (1953)



大阪市大正区全図

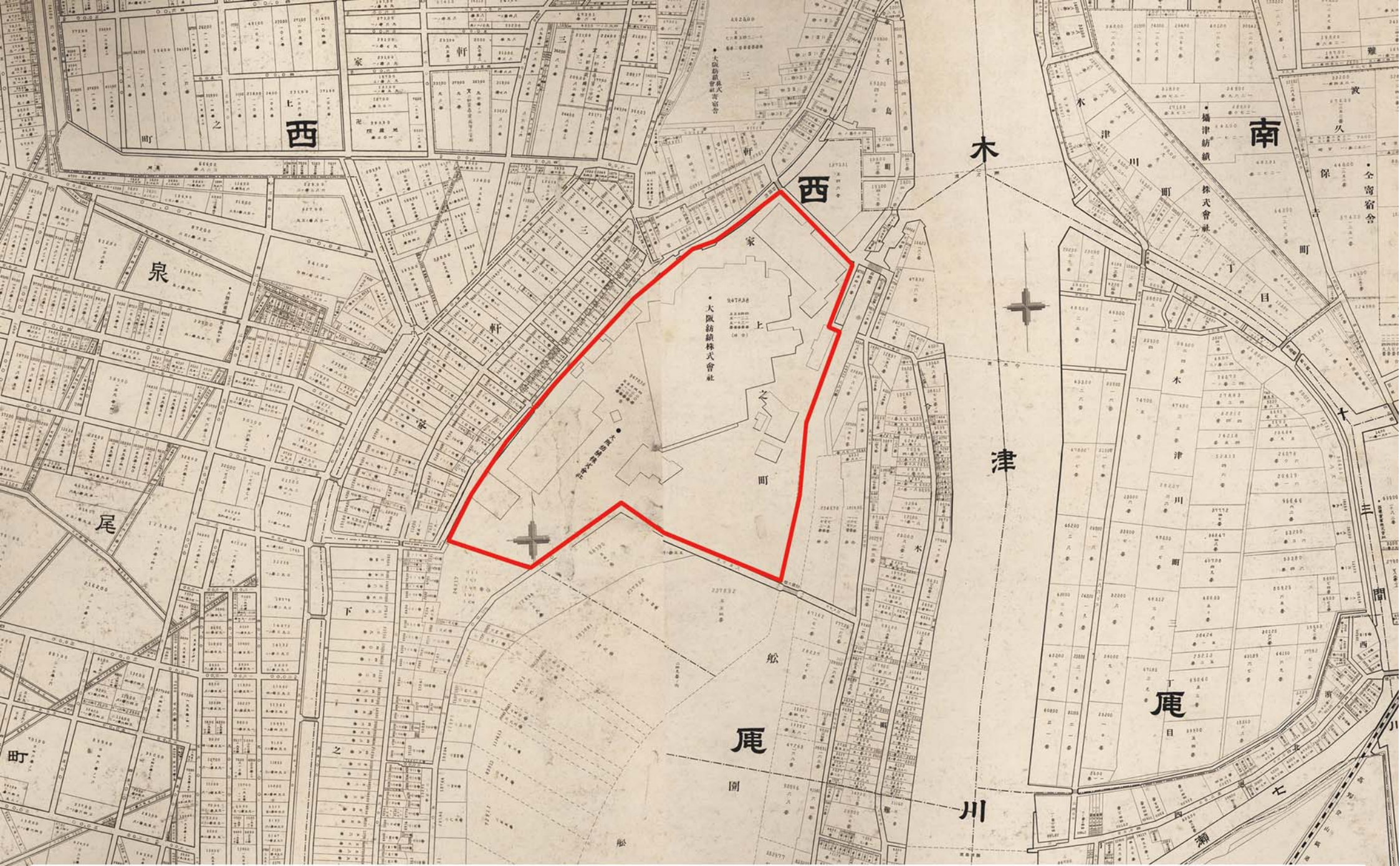
大正区の開発を歴史と見比べながら
調べていくと、時代により中心となっていた
業種の違いが見られます。
またこれらには地域性も感じられます。

- ① 紡績による発展
(三軒家)
- ② 木材による発展
(小林・北恩加島)
- ③ 工業による発展
(船町・南恩加島)

ものづくり企業と大正区の歴史



三軒家工場全景



明治時代にあった大阪紡績工場（現在の三軒家公園）。当時は西区。

民間での規模の大きい工場は、明治一四年に創業した大阪鉄工所である。イギリス人ハンターが日本人の協力を得て創立した造船工場である。大阪鉄工所は六軒家新田（現此花区）にあったが、後に大正区域にも工場を進出させている。大阪鉄工所に次ぐものが、明治一五年創立の大阪紡績会社である。大阪紡績会社は、日本資本主義発達の上で大きな足跡を残した渋沢栄一の発案に基づくもので、株主には東京と大阪の財界有力者が名を連ねた。設立された場所は西成郡三軒家で、船開い所に面していた。規模はそれまでの紡績工場が二〇〇〇鍾規模であったのに対し、一〇五〇〇鍾というものであった。煉瓦造三階建て（一部四階）の巨大工場が出現した（大正区三軒家東公園内に碑が建っている）。大阪紡績では、電灯を使用したこと、深夜業を行ったことなどで知られている。大阪紡績の成功は、大阪で紡績会社が次々と建設されることとなり、やがて東洋のマンチエスターといわれる基を作ったといえることができる。



大阪紡績工場（『東洋紡百年史』上）より

大阪紡績株主（東京・その他在住者）
（明治16年6月末）

人 名	株数	職 業・地 位
〔東京〕		
渋沢 栄一	336	第一国立銀行頭取
益田 孝	85	三井物産社長
大倉 喜八郎	66	大倉組商会主
西園寺 公成	63	伊達宗徳代理
矢島 作郎	58	第一国立銀行取締役
藤本 文策	45	東京電灯社長
川村 伝衛	27	川村製糸工場主
薩摩 治兵衛	24	第三十三国立銀行頭取
辻村 新兵衛	20	金巾・洋糸問屋「丁字屋」
橋本 至矣	18	呉服・綿糸問屋「辻屋」
寺田 政成	12	亀井茲監代理
喜谷市郎右衛門	12	売薬商
佐藤 政樹	6	亀井茲監家令
清水 格亮	5	山辺丈夫の父
田中 栄秀	5	第三十二国立銀行取締役
山中 隣之助	5	銀行集会所総代
〔神奈川〕		
原 善三郎	20	生糸輸出商「亀屋」
茂木 惣兵衛	20	第二国立銀行頭取
中村 道太	9	生糸輸出商「野沢屋」
〔和歌山〕		
愛岩 直三郎	15	第二国立銀行副頭取
〔滋賀〕		
小杉 佐兵衛	5	土族
		第四十三国立銀行頭取

注：高村直助『日本紡績業史序説』上より
（『東洋紡百年史』上）

大阪紡績株主（大阪在住者・10株以上）
（明治16年6月末）

人 名	株数	職 業・地 位
松本 重太郎	64	洋反物仲買、第三百三十国立銀行頭取
藤田 伝三郎	59	銅山業、土木請負、軍需品調達、靴製造
小室 信夫	50	綿繭問屋、蜂須賀茂昭代理
林 甚左衛門	50	鹿児島商人、第五国立銀行発起人
蒲田 清蔵	50	小室家番頭、大阪紡績
阿部 元太郎	50	呉服問屋
住友 吉左衛門	50	住友家当主、大阪株式取引所・大阪商船発起人
杉村 正太郎	35	砂糖仲買「錫屋」、大阪通商会社頭取並、第四十二国立銀行取締役
山口 吉良兵衛	30	唐物商「布屋」、大阪通商会社頭取並、第四十八名国立銀行頭取
芝川 又平	30	唐物商「百足屋」、大阪通商会社頭取並、書籍商、米商会所頭取
熊谷 辰太郎	30	第一国立銀行大阪支店役員
井口 新三郎	29	第一国立銀行役員、大阪株式取引所発起人
布井 良助	23	米穀商
阿部 金治郎	20	大阪商船発起人
川上 利助	15	兩替商「西村屋」、川上銀行主、大阪株式取引所株式仲買
俣野 与三郎	15	染木綿手拭商
藤本 清兵衛	15	米穀問屋
馬場 新三郎	15	棉問屋「松坂屋」
山辺 丈夫	14	大阪紡績社員
平瀬 亀之助	10	兩替商「千鍾屋」、兵庫商社肝煎、第三十二国立銀行頭取
安田 源三郎	10	唐物商「滋賀屋」、大阪通商会社頭取並、茶取引、米穀商
辻 忠右衛門	10	第三国立銀行支配人
小田 平兵衛	10	第五十八国立銀行頭取、大阪商船発起人
富岡 半兵衛	10	銅商
永見 米吉郎	10	棉問屋「桜井屋」（本家）、大阪通商会社頭取並、渋谷紡績所主
渋谷 庄三郎	10	棉問屋「桜井屋」（分家）
渋谷 正十郎	10	売薬商
日野 九郎兵衛	10	棉商
萩田 和平治	10	木綿太物商
松居 吉蔵	10	
辻川 兵助	10	

注：高村直助『日本紡績業史序説』上より
（『東洋紡百年史』上）

新しい一万円札
の顔になった
渋沢栄一の
名前が。

渋沢栄一と大阪紡績工場



昭和29年 北村の製材所

大正区の近代

堀田 暁生

明治三十年代前半はまだ近世以来の風物景観が残っており、その様子は郷土雑誌『上方』四十号に掲載された写真でよくわかる。一方では、明治三十年前後からこの地域への工場進出がみられるようになる。明治三十四年発行の『大阪市統計書 第一回』によれば、明治二十八年に三軒家コークス合資会社、同二十九年には大阪再綿株式会社・木津川セメント株式会社・大阪材木株式会社などの工場が設けられたことがわかる。

大正期に入ると、区域の景観が大きく変化する。それは土地会社が盛んに土地造成を行うに従って、運河の開鑿が行われたことによる。また第一次世界大戦後、沖繩出身の人々が区内に集住するようになる。

大正区内の運河は、木津川運河（大正二～三年）・千歳運河（大正三年）・福町堀（大正七～八年）・岩崎運河（大

正九年）・大正運河（大正八～十二年）というように、ほぼ大正期を通じて運河が造られている。これらの運河とともに、区域の中央部では水面の拡大化が行われており、そこに貯木池が造成されたのも大きな特徴である。

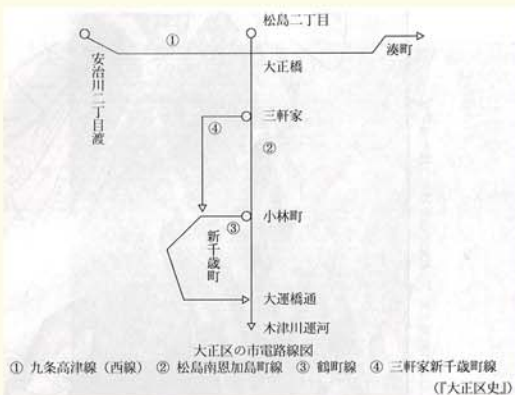
木津川運河は区域の南部に造られ、木津川と内港を結んでいる。木津川運河以南は完全な工場地帯であり、昭和七年の地図では、大阪鉄工所築港分工場・日本人造肥料・日本鋼管・中藤鉄板工場・星製薬工場・藤永田造船所などの大工場が並んでいる。

木津川運河の北側にもコークス工場やセメント工場があり、阪神工業地帯の一角を担っていることがわかる。

大正運河は木津川と尻無川を結んでいるが、この運河の付近に貯木池が多数作られたのである。また沖繩出身の人々は水面の上で活動することに秀でていることから貯木や製材に従事することが多く、この付近に集住した。明治末期から大正期にかけて貯木や製材関係の工場が多くできるのも特徴の一つといえる。

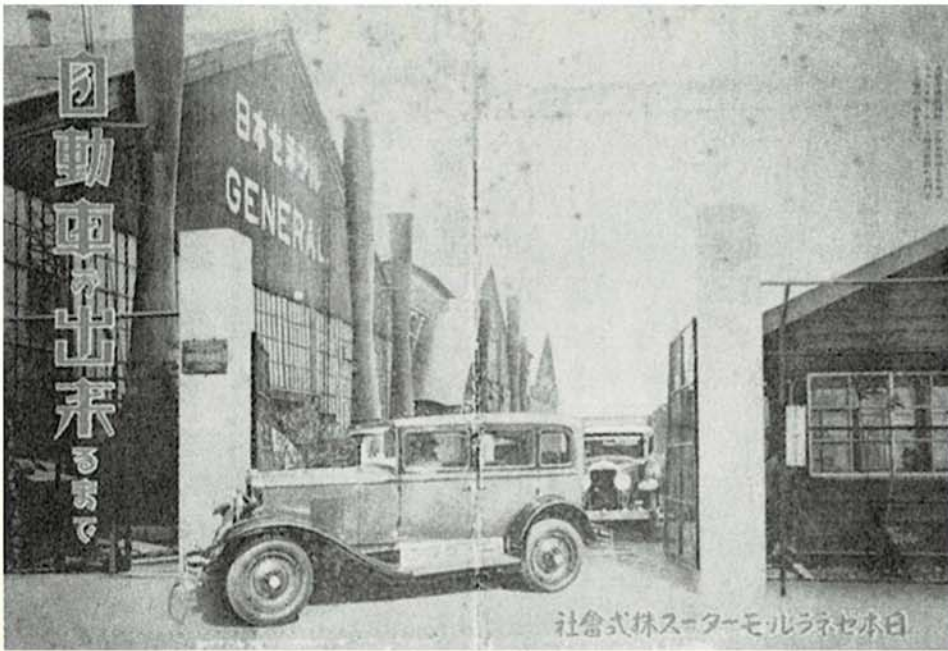


小林町付近の貯木池（『ふるさとの思い出写真集 明治・大正・昭和 大阪 上』）

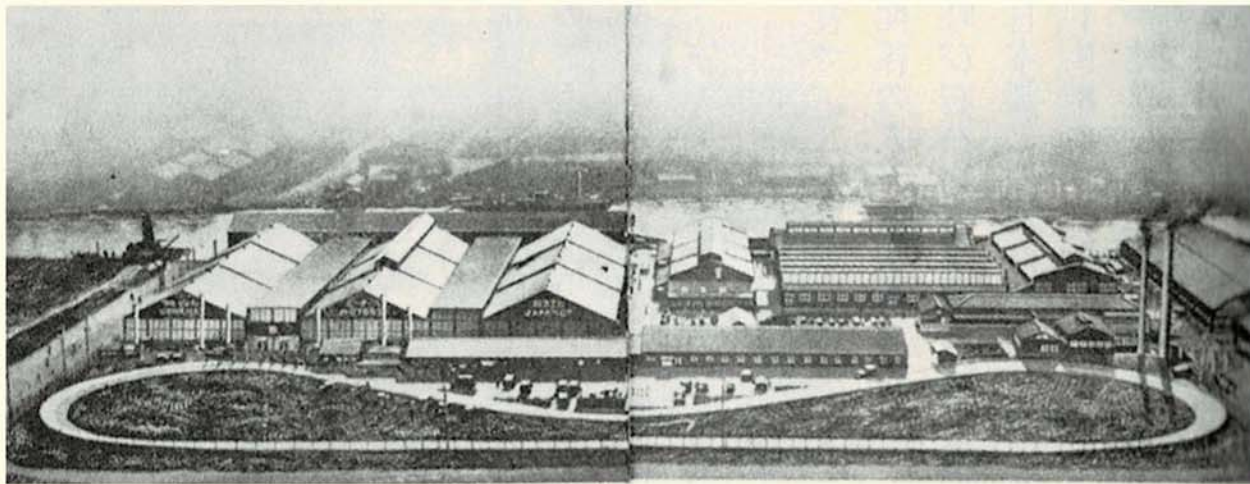


昭和の時代になると
市電の開通なども
あってか人口も
増加していった。

運河と貯木場の造成。木材関連の町に変化。



日本ゼネラル・モーターズの会社パンフレット。大阪工場の写真が使われた。



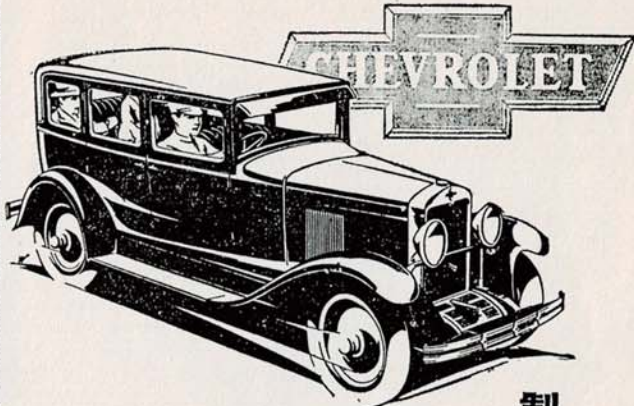
『横浜製フォード、大阪製アメリカ車』（編集者 サトウマコト）より

日本GM会社設立

大阪市港区（のちに昭和七年大正区）鶴町三〇、三
番地に外国法人「日本ゼネラル・モーターズ株式会
社」資本金八百万円、約一万坪の敷地にテストコース
を含む組立工場、部品倉庫、事務室が準備された。会
社の設立は一九二七（昭和二）年一月十一日。

大阪製シボレー（右ハンドル）

シボレー號はゼネラル・モーターズの製品なり



製品の背後に此資源あり

シボレー號は其好適例

ゼネラル・モーターズの無限なる資力を完備せる組織は、一
九二九年式新シボレー號六氣常車によつて雄辯に物語られて
ゐます。

従来のシボレー號を根本的に改造して六氣常車となすに要せ
る時日は、自動車工業の歴史上最短のものであります。

のみならず此新車を製出するためには、四年間の長年月に亘
つて科學的並びに機械的研究を繼續しました。其間ゼネラル
モーターズ研究實驗所と試験運轉場において、百餘種の試
作發動機に對して絶えず徹底的の試験と實驗を行つたので
あります。

更に驚くべき事は此四氣常車植設の六氣常車が、殆ど従前
と同一値段で賣出されたことあります。之はゼネラル・
モーターズの莫大なる材料購買力と全世界に亘る販賣組織を
以てして初めて可能になつたのであります。

日本ゼネラル・モーターズ株式會社



昭和四年 大阪朝日新聞広告

昭和四年 V6 大阪朝日新聞

自動車時代の到来と工業の発展。

大正区域における30人以上の工場（昭和3年末）

工場名	所在地	創立年月	種別	製品	人員
東洋紡績 kk 三軒家工場	港区三軒家濱通 4-20	大正 3.6	繊維工業	綿糸綿布	1000
日本ゼネラルモータース KK	港区鶴町 1-30	昭和 2.3	機械器具	自動車	500
大阪市電気局運輸部車両課	港区福町 1-5	明治 40.12	機械器具	電車修繕	500
大阪製鐵 kk	港区南恩加島町 6	大正 5.12	金属工業	鋳鋼	300
栗本鐵工所（合資）	港区新炭屋町 77	明治 39.6	金属工業	鉄管	300
kk 大阪鉄工所築港工場	港区船町 15	大正 8.6	機械器具	船舶	300
kk 藤永田造船所船町工場	港区船町 6	元禄 2.3	機械器具	船舶	300
戸畑鋳物 kk 木津川工場	港区福町 1-2	大正 12.5	金属工業	鋳物	300
久保田鉄工所恩加島工場	港区南恩加島町 1	大正 7.4	金属工業	異形鉄管	200
大阪乾鑄工業 kk	港区新千歳町 183	大正 12.7	窯業	低温コールドタール	100
ダット自動車製造 kk 大阪支店	港区南恩加島町 1	大正 8.12	機械器具	自動車	100
大日本人造肥料 kk 大阪木津川工場	港区船町 13	大正 8.10	化学工業	人造肥料	100
kk 大林組工作所	港区千島町 6	明治 25	製材業	木材、木工	100
秋田木材 kk 大阪支店	港区泉尾竹之町 5-10	明治 42.3	製材業	木材	100
大阪市役所港湾部鶴町工場コンクリート製作所	港区鶴町通 1-1	大正 15.9	窯業	コンクリート	70
貝島乾鑄 kk 工場	港区南恩加島町 458	大正 15.12	窯業	石炭コールドタール	70
金子鋳鋼所	港区千島町 387	大正 6.4	金属工業	マンガンの鋼製鉄他	70
泉尾合資会社	港区泉屋中通 5-34	大正 6.7	金属工業	電線	70
松尾鉄骨橋梁 KK	港区福町 2-35	明治 19.3	金属工業	建築用鉄骨、橋梁	70
kk 若山鉄工所	港区南恩加島町 1-11	明治 36.4	機械器具	工作機械	70
大阪市港湾部機械工場	港区鶴濱通 1-1	大正 14.4	機械器具	工船用船艀、器具修繕	70
木津川製材所	港区千島町 259	大正 15.1	製材業	木材	70
木村林業 kk 木村製材所	港区福町 1-1	大正 14.8	製材業	木材	70
油野商店製材部（合資）	港区北恩加島町 68	大正 12.1	製材業	木材	70
昭和木材 kk	港区千島町 331	昭和 3.3	製材業	木材	70
港商会（合資）	港区小林町 181	大正 14.4	製材業	木材	70
大阪金網合名泉尾工場	港区泉尾北村町 4-10	明治 26.1	金属工業	金網	50
中井利兵衛商店 kk	港区北恩加島町 29	大正 15.7	金属工業	釘伸鉄	50
松尾鉄骨橋梁 KK 分工場	港区福町 1-12	大正 15.11	金属工業	鉄骨、橋梁	50
大阪トタン板製造所鶴町工場	港区福町 2-37	大正 10.4	金属工業	鉄板亜鉛鍍金	50
帝国人造肥料 kk 工場	港区船町 10	大正 9.12	化学工業	硫酸、肥料	50
津村製材所	港区小林町 111	大正 14.2	製材業	木材	50
山長製材所	港区小林町 17	大正 13.7	製材業	木材	50
清水製材所（合資）	港区小林町 182	大正 13.6	製材業	木材	50
山谷洋家具（合資）	港区福町 1-11	明治 2.7	家具建具	洋家具	50
宗像商会コークス製造所	港区恩加島町 458	大正 7.7	窯業	コークス	40
柴柳新二	港区南恩加島町 1	大正 2.7	金属工業	鍛鋼	40
高橋鉄工所（合名）	港区泉屋中通 5-5	大正 4.5	金属工業	鍛造・鉄工	40
浅野伸銅所	港区北泉尾町 2-27	大正 11.2	金属工業	銅真鍮伸板竿	40
駒井喜商店（合資）	港区泉尾濱通 2-1	明治 6.3	金属工業	鉄工、橋梁	40

工場名	所在地	創立年月	種別	製品	人員
芦田製作所 kk	港区南恩加島町 457	大正 9.10	金属工業	鉄柱、鉄塔、橋梁、鉄骨	40
日之出亜鉛鍍金（合資）	港区福町 1-15	大正 10.8	金属工業	亜鉛鍍金	40
岩永工作所	港区泉尾松之町 2-3	大正 6.3	機械器具	紡織機械	40
桑畑電機製作所	港区泉中通 2-6	大正 2.11	機械器具	電機機械器具	40
kk 河原棉行綿織工場部	港区千島町 290	大正 12.9	繊維工業	織綿、落綿	40
伊藤合名会社製材部	港区福町 2-38	大正 11.9	製材業	木材	40
長谷川勝助商店製材部	港区三軒家濱通 4-36	明治 42.9	製材業	木材	40
田中増吉製材所	港区浜通 4-31	大正 9.8	製材業	木材	40
旭木材株式会社	港区小林町 188	昭和 2.6	製材業	木材	40
広里製材工場	港区小林町 182	大正 14.5	製材業	木材	40
日本魚糧 kk	港区鶴濱通 1-1	昭和 2.11	蒲鉾製造	蒲鉾	40
土佐煉炭（合資）	港区新千歳町 195	大正 15.1	炭団等	豆炭	40
福田商店木津川工場（合資）	港区平尾町 95	大正 15.7	雑業	麻袋、セメント袋	40
泉尾鋳業 kk	港区泉屋中通 5-56	昭和 2.3	金属工業	亜鉛、鉛、銅精錬	30
浪花アルミニウム工業 kk	港区泉屋上通 2-31	大正 9.4	金属工業	アルミニウム鍋釜	30
泉尾紡機製作所	港区泉屋松之町 5-5	大正 15.4	機械器具	紡織機用部分品	30
大阪市機械器具修繕工場	港区福町 2-31	大正 12.12	機械器具	機械器具修繕	30
千住鉄工機械部	港区泉屋中通 1-15	大正 13.2	機械器具	製線製鋼機、機械類	30
三原造船鉄工所（合資）	港区今木町 2-32	大正 11.7	機械器具	船舶	30
大六株式会社	港区泉尾濱通 3-55	明治 45.6	化学工業	ゴムベルト、ゴムパッキング	30
中本貝鋳製造所	港区泉尾竹之町 1-29	昭和 38	貝製品	貝鈕	30
大乙製材所	港区小林町 32	昭和 2.1	製材業	木材	30
堤製材所	港区泉尾濱通 4-33	大正 9.4	製材業	木材	30
中根製材所	港区小林町 32	昭和 2.3	製材業	木材	30
向井製材所	港区泉尾濱通 4-33	大正 12.12	製材業	木材	30
kk 楠商店製材部	港区小林町 195	昭和 3.3	製材業	木材	30
京田中製材所	港区泉尾梅之町 4-53	大正 10.6	製材業	木材	30
小林製材所（合資）	港区小林町 120	昭和 2.3	製材業	木材	30
ミツワ製材所（合資）	港区小林町 24	昭和 3.4	製材業	木材	30
清水製材所	港区小林町 45	大正 15.1	製材業	木材	30
菱共商会（合資）	港区北恩加島町 17	大正 8.2	製材業	木材	30
小島喜三郎	港区三軒家町 1-98	大正 13.4	コルク	コルク草履台	30
日ノ出コルク工業所	港区千島町 109	大正 15.9	コルク	コルク加工	30
大阪製粉 kk	港区平尾町 100	大正 12.10	精穀製粉	小麦粉	30
三立製菓 kk 大阪工場	港区泉屋中通 5-13	昭和 2.6	菓子製造	菓子	30
矢野テント商会（合資）	港区泉尾竹之町 1-36	明治 43.7	雑業	天幕雨覆	30

注：『大阪市工場一覧』（昭和3年末）より作成

大正区域における30人以上の工場（昭和3年末）